

評価:「A:たいへんよく取り組んでいる」「B:よく取り組んでいる方である」「C:少し改善(努力)することがある」「D:まだ改善(努力)しなければならない」

	評価項目(指標)	○実践内容 ◆具体的目標	方策・手立て	自己評価	結果の考察・分析による成果と課題 ※()はR6結果	学校運営協議会評価	学校運営協議会評価コメント
確かな学力の向上	1 分かる!・できる!授業の展開	○チェックポイントに基づく授業改善 ○児童一人一人の課題の明確化 ○基礎的・基本的内容(音読・漢字・計算)定着 ○ICT機器の効果的な活用 ◆学校評価(基礎学力項目)の全体平均3.2以上	○授業研究会(主題研究)を中心とした日々の授業改善 ○問題集やQubena(キュビナ)を用いた習熟の時間の確保による児童一人一人の実態把握と、個に応じた指導の充実 ○定期的なオンライン授業の実施	B	◆学校評価の結果...3.3(3.2) ・「Qubena(キュビナ)」や問題集を活用した習熟の時間を確保し、個に応じた指導を充実させたことで、基礎学力項目の全体平均は3.3となり、目標値(3.2)を達成した。 ・ICT機器の効果的な活用や定期的なオンライン授業の実施、さらに授業改善のためのチェックポイントに基づく指導が一定の成果を上げた。	B	オンライン授業やAI型学習ソフト(キュビナ)を効果的に活用し、少人数環境における個別最適な学びを具現化している点は高く評価できる。ICTを駆使したきめ細かな指導を継続し、さらなる学力の伸長を図るよう期待したい。 音読や漢字等の基礎学習は着実な成果を上げている。一方で、文字の正確性や文法などについて、基礎を生かしながら応用力をさらに伸ばしていくことが望まれる。児童の発達段階に伴う心理的变化に配慮しつつ、丁寧な学習態度の育成と指導の質の向上に注力してもらいたい。 掲示物の工夫や高い目標を掲げた読書推進など、学習意欲を高める環境整備が評価できる。学習習慣の確立には家庭との一貫した指導が不可欠であり、学校からの積極的な情報発信を通じて、家庭との協力関係をより強固なものにしていく必要がある。
	2 読解力の向上	○読解力の知識・技能の指導と要約活動推進 ○読書活動の推進(目標冊数 低100冊中80冊 高60冊以上) ○落語指導の充実 ◆学校評価(読解力項目)の全体平均3以上	○問題集や「コグトレ」を活用した認知能力・読解力の向上 ○読書目標の設定と、読書イベントでの意欲喚起 ○週1日「朝読」の設定、隙間時間の読書を奨励 ○ワークシートを活用した落語指導の工夫と5つのポイントを生かした表現力の向上	B	◆学校評価の結果...2.7(2.4) ・読解力項目は2.7に留まり、目標の3.0に届いていない。今後は「コグトレ」による認知能力の向上や、週1回の「朝読」、隙間時間の読書奨励をさらに徹底し、知識・技能の定着を図る。 ・朝読を設定したことで、週一回は読書の機会があり、全児童目標冊数を達成し、昨年度の個人貸出を上回る事ができた。		
	3 学習態度・学習習慣の定着	○ていねいな文字の指導 ○家庭学習の充実 ○前日準備の徹底(忘れ物0) ○立腰指導の徹底 ◆学校評価(学習習慣項目)の全体平均3以上	○立腰や鉛筆の持ち方、ノートの使い方等の指導と学習帳や自学帳の提示・紹介 ○積極的・具体的称賛での意欲喚起と個に応じた声掛けや指導の工夫 ○生活帳の活用及び保護者との情報共有や共通実践	B	◆学校評価の結果...2.9(1.6) ・学習習慣(2.9)についても目標値(3.0)を下回っているため、立腰指導やノートの使い方の提示、生活帳を通じた保護者との共通実践を強化する。		
豊かな心の育成	1 基本的生活習慣の定着	○「よい子の約束」「不土野っ子あたりまえのこた4ヶ条」の徹底 ◆学校評価(基本的生活習慣項目)の全体平均3以上	○「よい子のやくそく」「不土野っ子あたりまえ4ヶ条」の周知と実践 ○「SWPBS」ポジティブ行動マトリックスに基づく行動支援計画の実践	B	◆学校評価の結果...3.0(2.5) ・基本的生活習慣(3.0)は目標値に達していますが、今後も「よい子の約束」や「不土野っ子あたりまえ4ヶ条」の周知・実践を継続し、望ましい人間関係の構築に努める。 ・定期的に振り返りを行うことで、年間をとおし児童の意識を高め、チェックシートやシール等で意欲の向上を図ることができた。	B	「不土野っ子あたりまえ4ヶ条」等の継続指導により、挨拶や基本的生活習慣の定着が高く評価できる。学校・家庭・地域の密接な連携により、思いやりや命を大切にできる心が育まれている。特に「抱っこ宿題」は児童の情緒安定に資する優れた取組である。 今後は「抱っこ宿題」と図書の出借活動を連動させ、家庭での読み聞かせを通じて読解力の向上を図るとともに、親子・コミュニケーションの一層の充実につながる発展的な取組となることを期待する。 また、時と場に応じた適切な敬語の使用や社会マナーの習得に向け、学校・家庭・地域が共通理解のもとで継続的に働きかけていく必要がある。
	2 思いやりの心と命を大切に教育の推進	○縦割り班の活動の充実 ○道徳科の工夫・改善と評価 ○「抱っこ宿題」による自己肯定感の醸成 ◆学校評価(思いやりに係る項目)の全体平均3以上	○望ましい人間関係の醸成を目指した教育相談アンケート実施と結果の共有、対策の共通実践 ○号令や聞く姿勢など日常指導の振り返りと「聞くことアンケート」での自己評価、分析、活用 ○「抱っこ宿題チェックカード」の活用	A	◆学校評価の結果...3.3(2.4) ・思いやりに係る項目は3.3と高く、目標(3.0)を上回った。これは「SWPBS(ポジティブ行動支援)」に基づく行動支援計画の実践や、「抱っこ宿題」による自己肯定感の醸成が功を奏したと考えられる。 ・教育相談アンケートの実施と結果の共有により、児童一人一人の実態に即した対策を組織的に行っている。 ・「聞くことアンケート」では、聞き方のポイントを意識させたことで、全体的に評価が上がった。		
	3 危機管理と安全指導の徹底	○危機管理マニュアルの改善 ○安全点検と迅速な修繕 ○児童の安全意識の向上 ◆学校評価(安全に係る項目)の全体評価3以上	○危機管理マニュアルの改善と周知徹底 ○児童・職員による安全点検(毎月)の工夫・改善 ○各避難訓練の実施と振り返り	A	◆学校評価の結果...3.1(2.7) ・安全意識については、児童・職員による毎月の安全点検の工夫を通じて、さらなる向上を図る。		
たくましい体の育成	1 体力の向上	○個に応じた目標の設定 ○体育の時間や休み時間の運動量確保 ○走力、持久力、柔軟性が向上する指導 ○運動の日常化及び体力向上 ◆柔軟性の調査で、4月から向上した児童100%	○外遊びや合同体育の実施、認定証の活用等を通じた体力向上の取組 ○体育的行事の目標設定と振り返り、主体的な行事への取組 ○教具を安全に使うための整備や整理整頓による怪我や事故防止 ○一輪車・縄跳び検定表の活用	B	◆学校評価の結果...3.2(2.6) ・外遊びの推奨や一輪車・縄跳び検定表の活用により、体力向上の取組が定着し、全体評価は3.2(目標3.0)となった。体育の授業の中で、サーキットトレーニングに取り組ませるなどして、さらなる体力向上を図る。	B	少人数での体力作りの取組を評価する一方、投力等の技能低下や、昼休み時間などに「児童の姿が見えにくい」という点は課題の一つである。今後は、児童がより主体的に活動し、地域からも活気が感じられる持続可能な外遊びの推進策を検討してほしい。 定着した給食指導を基盤とし、さらなる充実に向けて家庭・地域との連携を強化する。 教職員によるきめ細かな指導を維持するため、学校完結型からの脱却が不可欠である。体力作りや体験活動の充実に向け、保護者や地域住民が積極的に教育活動へ参画できる仕組みを整え、地域全体で教職員を支える意識の醸成に努める必要がある。
	2 健康の保持・増進	○早寝・早起き・朝ご飯の生活リズムの習慣化 ○歯磨き指導の充実 ◆学校評価(生活リズムに係る項目)の全体平均3以上 ◆むし歯治療率100%	○毎朝の健康観察時のチェック ○保健だよりや治療勧告による保護者への啓発 ○保護者と連携した生活習慣についての個別指導 ○児童の健康課題を踏まえた学校保健委員会の実施 ○毎日の給食後の歯みがき指導(H-1グランプリ) ○学校歯科医や養護教諭による歯磨き指導(月1回の染出し) ○個別の健康相談での治療勧告	B	◆学校評価の結果...3.3(3.4) ・歯みがき指導)や学校歯科医による専門的な指導により、健康の保持・増進に向けた意識が高まっている。 ・むし歯治療率100%を目標としているが、未治療の児童に対する個別相談や治療勧告、保健だよりを通じた保護者への啓発をより一層強化する必要がある。		
	3 食育の推進	○食に関する指導と「弁当の日」の確実な実施 ◆学校評価(食に関する項目)の全体評価3以上	○給食時間の食事のマナー指導 ○給食一ロメモノを活用した食についての指導 ○段階をふまえた「弁当の日」の取組	B	◆学校評価の結果...3.2(2.7) ・食育に関しては、給食一ロメモノを活用した指導や、段階を踏んだ「弁当の日」の取組を継続し、食事のマナー定着を目指す。		
開かれた学校づくりの推進	1 積極的な情報発信	○学校だより、学級通信の定期的な発行 ○HPの充実 ◆学校評価(情報発信に係る項目)の全体平均3.4以上	○PTA・学校評議員会、学校運営協議会の計画的な実施 ○学校HPの随時更新、内容充実(学校目標との関連記載) ○役員会・常会等での積極的な情報発信と協力依頼	A	◆学校評価の結果...4.0(3.4) ・学校ホームページの随時更新や学校目標との関連記載により、情報発信の評価は4.0と極めて高い評価を得た。	A	学校だよりやHPによる積極的な情報発信を高く評価する。特に未就学児童世帯を含む地域全体への確に情報を届けている点は、学校への親近感と理解を深める一助となっている。今後も地域との接点として継続的な発信を期待する。 地域人材の積極的な活用や、教職員による地区活動への主体的な参画を評価する。「地域と共にある学校づくり」が具現化されており、強固な信頼関係に基づく外部リソースの導入は、児童の社会性育成に資する本校の大きな特色として定着している。 地域と家族的な関係を築いている点は強みであるが、親密さが教育活動の客観性や規律に影響を及ぼさないよう留意が必要である。三者が信頼に基づきつつも節度ある距離感を保ち、建設的な協力関係を持続させていくことが、健全な学校運営に不可欠である。
	2 地域人材の積極的活用	○民謡・落語の外部指導者の招聘 ◆学校評価(地域連携に係る項目)の全体平均3.4以上	○民謡・落語指導者との連絡・調整 ○「総合的な学習の時間」の内容検討及び支援(担当職員) ○地域人材の掘り起こしと連絡体制の整備・充実	A	◆学校評価の結果...3.9(3.1) ・民謡・落語の外部指導者の招聘や、地域行事への積極的な参加を通じ、地域人材を活用した「推葉村学」が充実している。地域連携(3.9)や地域愛(3.9)の項目も非常に高い数値を示した。		
	3 地域愛の高揚	○地域の行事への積極的参加、民謡・落語指導の充実 ○地域学習(推葉村学)充実(総合的な学習の時間等) ◆学校評価(地域愛に係る項目)の全体平均3.4以上	○地域行事に関する資料の収集と児童への理解推進 ○推葉村学を充実するための地域人材と地域素材の活用 ○ふれあい参観日・学習発表会等の内容充実(相手を意識した発表の工夫等)	A	◆学校評価の結果...3.9(3.4) ・今後も学校運営協議会や公民館と連携し、地域素材を活用した学習内容の検討や地域人材の掘り起こしを継続することで、地域と一体となった教育活動を推進していく。		